



破碎された枝や葉に触れ、資源再生の大切さを学ぶ児童

資源再生の大切さ学ぶ

西目屋小で環境教育 クイズや作業見学

西目屋村の西目屋小学校で5日、県産業廃棄物協会主催の環境教育支援事業が行われた。児童は環境に関する問題や課題をクイズ形式で学び、雑木を再利用するための破碎作業を見学して廃棄物の適正処理について理解を深めた。

事業は児童にリサイクル

21人が参加し、「アルミ缶は何度リサイクルできる?」「地球の平均気温は2100年までに何度上昇する?」といった環境クイズに挑戦した。このほか、剪定した枝を小型の破碎機を使って細かくする作業も見学。

出してきた木くずは学校田や畑の肥料として活用されるといい、木くずに触れるなどして廃棄物の再生利用に理解を深めた。5年の三上紗奈さんは「アルミ缶が何度でもリサイクルできることは知らなかった。水の無駄遣いをしないように、歯磨きの際は蛇口を閉めるようにしたい」と話した。(石田紅子)

木質チップ加工に驚き

児童21人、リサイクル学ぶ

西目屋

西目屋村の西目屋小学校(福井淳悦校長)でこのほど、環境保全の大切さを学ぶ特別授業が行われた。4～6年生21人が、通常廃棄される木の枝を有価物に加

工する機械を見学するなどし、リサイクルや廃棄物の適正処理について理解を深めた。県産業廃棄物協会が主催。同協会青年部会の会員が同校を訪れた。会員らは小型破碎機を使い、村内で出た剪定枝を肥料などに活用される木質チップに加

工。児童たちは次々と枝を破碎する機械に驚きつつ、できあがったチップの手触りやにおいを確かめていた。見学に先立ち、児童たちは「アルミ缶は何回リサイクルできる?」「2100年の地球の平均気温は最大何度上がる?」といった環境に関する3択クイズに挑戦した。山下來心さん(5年)は「(破碎機で)枝があつという間に細かくなつて、すごいと思つた。温暖化のことをもっと勉強したい」と語った。



木の枝を破碎してできた木質チップの手触りやにおいを確かめる児童たち

坂田煌典君(6年)は「クイズでスプーン1杯の天ぷら油でも、きれいにするにはたくさんのお水が必要だと分かった。使いすぎないように注意したい」と話した。(太田佳希)

この画像は、当ページに限って陸奥新報社及び東奥日報社が利用を許諾したものです。転載等は、固くお断りします。